

インターネットを利用した地域の観光情報発信に関する研究

—呉市下蒲刈町の地域観光情報発信を中心に—

権 俸基¹

A Study on the Providing Province's Tourism Information using the Internet

要約

現在、全国各地の観光地や観光施設は、情報通信技術（ICT）の導入を行い、インターネット上での地域観光情報の発信に取り組んでいる。インターネットを利用した地域観光情報の発信は、経済的な面において、また、その情報の伝達範囲においても、大きなメリットを持っており、今後も積極的な取り組みが予想される。本稿では、地域観光情報の発信において、より効果的な形での観光コンテンツの発信について検討する。そのために、まず、地域観光情報発信の現状とその特徴について分析を行う。そして、その改善点を考慮したモデルとなるホームページを作成し、インターネット上で観光情報の発信を行い、情報の受け入れ側の意見や感想を収集した。その結果、まず、①情報発信においては、情報受け入れ側のニーズにマッチするコンテンツと構成が重要であること。②情報発信の初期段階から、関連組織との効果的な情報伝達のための連携が必要であること。③情報発信の効果进行分析し、持続的に改善を推進する組織の明確化が必要であること。が、確認できた。

[キーワード]

地域観光、情報発信、地域連携、情報通信技術、地域観光活性化

1 はじめに

近年、情報通信技術の急激な進展は、社会全般に渡って大きな変化をもたらしている。特に、ビジネスや観光関連分野におけるその活用は、大変目覚ましいものがある。観光情報の発信と受け入れにおいても、インターネットの普及は勿論、スマートフォンや、SNS

¹ 広島文化学園大学 社会情報学部

利用の増加により、ますます時間的な制限と空間的な制限を超えた様々な情報の「発信」と「受け入れ」が高度化している。現在では、地方の無名な観光施設までも手軽にホームページを作成し、インターネット上で公開することで、従来よりも効果的な広報を行うことができている。そして、今や情報受け入れ側も、観光施設に関する、より詳しい情報発信を当然視し、積極的に要求する傾向にある。本稿では、広島県呉市にある下蒲刈町の朝鮮通信使資料館ⁱⁱをとりあげ、まず、当該施設の観光情報発信における現状と問題点を分析する。そして、その改善点を反映したモデルホームページを作成し、インターネット上での発信を試みることで、地域観光振興のための、情報発信のより効果的なあり方について幾つかの提案を行いたい。

2 地域観光施設の現状と認知度調査

1) 地域観光施設の現状

まず、以下では、本稿で調査対象としている、広島県呉市下蒲刈町にある朝鮮通信使資料館に対して、呉市内における観光施設としての現状を概観してみる。

下蒲刈町は、古くから、瀬戸内海の海上交通の要所として栄えてきた地であり、江戸時代には、朝鮮通信使が1607年から1811年まで12回来日しているが、その内、現在の下蒲刈町に11回立ち寄ったという歴史と伝統を持つ由緒ある地域である。この朝鮮通信使関連遺跡として、下蒲刈町には、三ノ瀬朝鮮通信使宿館跡や蒲刈島御番所跡、三ノ瀬御本陣跡の県史跡がある。これらの史跡は、現存する構造物なく、「跡」として広島県の史跡に指定されているものである。下蒲刈町に、このような朝鮮通信使関連の遺跡が存在する背景には、朝鮮と日本との歴史的な交流が関係している。

一方、地域観光面における呉市下蒲刈町のイメージは、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、みかんやレモンの特産物が有名な地域である。そして、全島庭園化事業「ガーデンアイランド構想」の一環として島内の三ノ瀬地区に松濤園を整備し、観光振興や地域の活性化に力を入れてきた地域である。

この松濤園には、歴史的な伝統と文化を活用した朝鮮通信使資料館（「御馳走一番館」）がある。館内には、朝鮮通信使来日同時の豪華な接待膳を忠実に復元した展示や通信使の行列を配したジオラマ模型、当時の通信使を再現した等身大の人形、さらに精密に再現された1/10の朝鮮通信使船の模型、各種の絵画・資料などが多数展示されている。

この資料館を含めた松濤園には、下蒲刈町の観光の中心地として、年間を通して観光客が訪れている。広島県内でも福山市の鞆の浦を除けば、このような歴史的な国際交流と関係している地域は他に無い。また、国内の他の朝鮮通信使ゆかりの地域も、朝鮮通信使を活用した観光振興に力を入れているが、下蒲刈町の朝鮮通信使資料館のような独立した資料館は整備されておらず、下蒲刈町の資料館は、今では、日本国内において同様の歴史的経緯を持つ地域の中で、最も充実した施設と整備された環境を有していると言える。

本稿で呉市の下蒲刈町を対象とした理由は、当該地域は前述のように、地理的な利点に

より、古くから朝鮮通信使ⁱⁱⁱによる日韓交流の重要な役割を果たした歴史を持っている。そして、下蒲刈町は、呉市へ編入する前から、朝鮮通信使関連遺跡の保存や行列の再現、関連資料の研究に力を入れてきており、韓国の朝鮮通信使研究関係者や機関からの当該施設への多くの人々が調査のために訪問していることから分かるように、朝鮮通信使に関連しては、独自の活用価値がある施設と言える。

以上のことを総合的に考慮した場合、下蒲刈町の観光振興において、今後更なる朝鮮通信使資料館の活用が期待できるからである。

2) 地域観光施設の認知度調査

ここでは、呉市下蒲刈町の朝鮮通信使資料館を含む呉市内の主要観光施設や観光地に対する市民の認知度を確認するために、市民を対象としたアンケート調査を行った。

<質問票による調査期間及び調査対象・調査方法・内容>

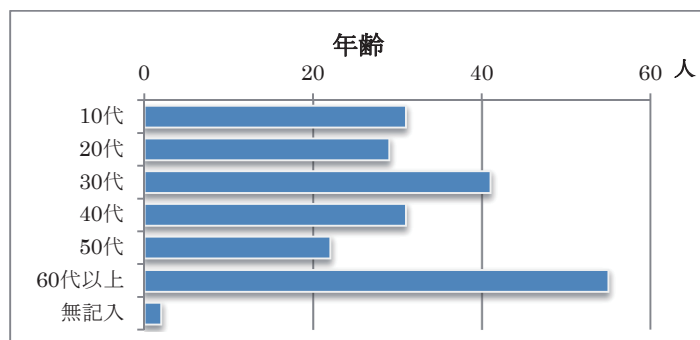
質問票による調査は、次のような方法・対象・調査方法・内容によって行った。

- (1) 調査期間：2013年11月3日
- (2) 調査方法：質問票により、呉地域の一般市民を対象に対面配布と回収を行い、210件の回答を得た。
- (3) 調査内容：アンケート調査の主な内容は次の通りである。
 - ①年齢・性別
 - ②居住地
 - ③朝鮮通信使関連観光地としての認知度
 - ④朝鮮通信使資料館への訪問歴
 - ⑤紹介ホームページの認知度
 - ⑥朝鮮通信使資料館の地域活性化への可能性
 - ⑦市民が思う呉市の主要観光地

3) 質問票による調査の集計結果

呉市内での210件のアンケートを集計した結果、集計件数の年齢割合は図1の通り、各年代それぞれから、回答を得ることができた。

図1



(1) 朝鮮通信使資料館の認知度

次の図2は、呉市に朝鮮通信使関連の観光地があることが、どの程度認知されているのかを調べた結果である。図2からは、全体的には53%の人が「知っている」と答えており、地域住民における知名度の低さが目立った。更に、年齢別に見ると、図3のように、40代までと50代以上の年代の認知度に大きな差があることが興味深い。このことは、若い世代に当該地域の歴史的文化遺産としてのアピールができてないと考えられる。

図2

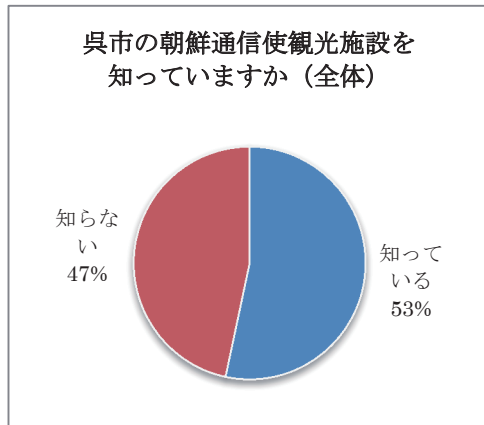
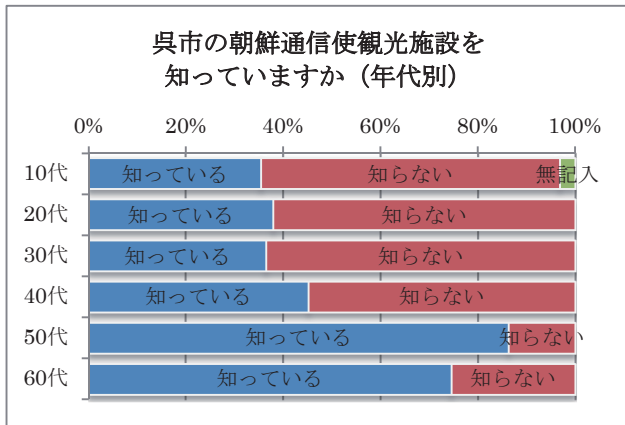
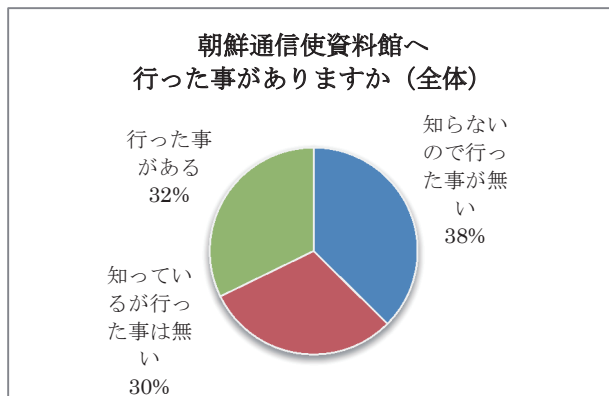


図3



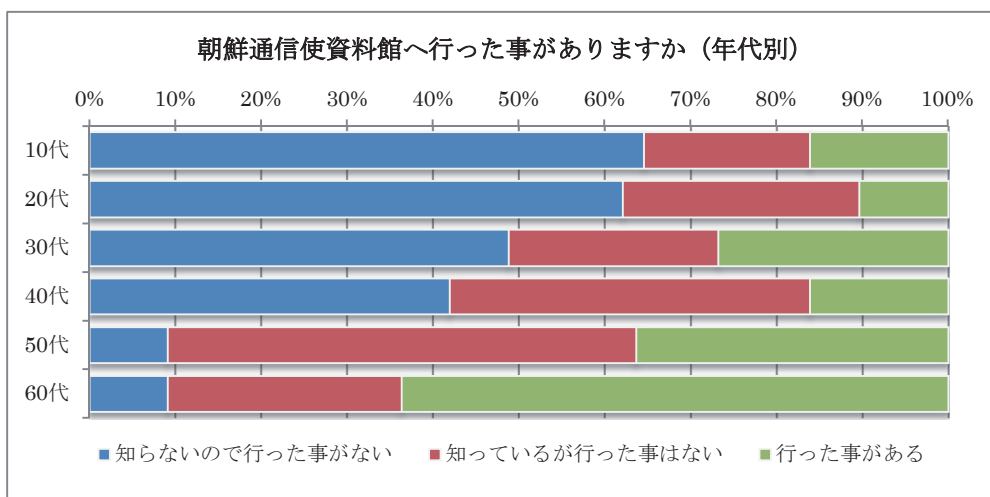
そして、現在の呉市下蒲刈町は、2003年に安芸郡下蒲刈町から呉市に編入されたとは言え、地理的には隣接している同一生活圏ということを考えると、図2でのように、全体的に見ても、居住している市内の観光施設であるにも関わらず、呉市内での当該施設の認知度が低いことが分かる。更に、当該施設への訪問歴を見ると、図4のようであり、「知らないで行った事が無い」が79件で38%、「知っているが行った事が無い」が64件で30%、「行った事がある」68件で32%である。ここで、注目すべきことは、「知っているが行った事が無い」の答えが30%にも及ぶことである。これは、上述の朝鮮通信使資料館の認知度でも分かるように、地域住民にとって、知っているが魅力的な観光施設としては認知されていないことの表れでもある。

図4



更に、訪問歴を年代別に見ると、若い年代になるほど、「知らないで行った事が無い」の割合が高くなっている（図 5 参照）。この点については、地域の観光施設を活用して地域活性化を図る場合、何よりも地域住民の協力が必要であることを考えるとき、外部への情報発信や広報に先立ち、その地域住民への積極的なアピールが必要と言える。

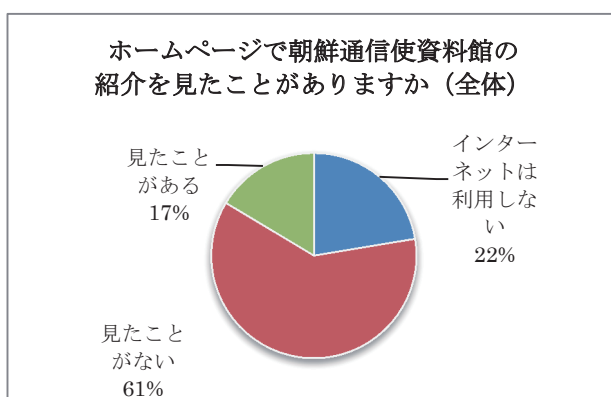
図 5



(2) 紹介ホームページの認知度

ここでは、当該施設のインターネットを利用した情報発信について地域の人がどのくらいその紹介を見たことがあるかを尋ねてみた。その結果は、図 6 でのように、全体的に見た場合、「ホームページで朝鮮通信使資料館の紹介を見たことが無い」と答えた人が 123 件 (61%) にも及んでいる。朝鮮通信使資料館の紹介は、呉市の観光情報ホームページである「くれナビ」をはじめ、下蒲刈町の蘭等文化振興財団のホームページにも掲載されていることを考えると、ホームページで情報提供を行っているものの、その十分な効果が得られていないといえる。市民の低い認知度の結果となった原因分析と対応が必要である。

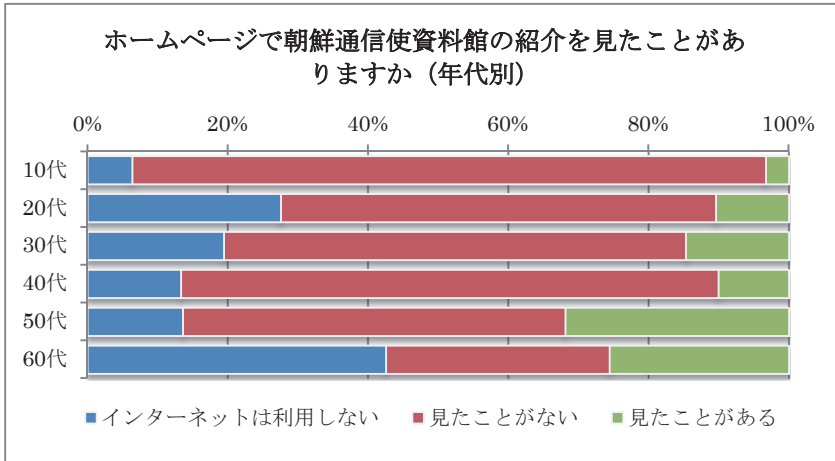
図 6



更に、図 7 は、年代別に、インターネットを利用しない人がいるものの、50代 60代で

は、「見たことがある」人の割合が、40代以下の年代よりも高いことが特徴的である。即ち、若い世代は、朝鮮通信使に興味を持っていないことの表れであるが、ここで言えることは、インターネットを活用した情報伝達や広報の積極的な発信は、高齢者に対しても、効果的な広報手段になり得るということである。

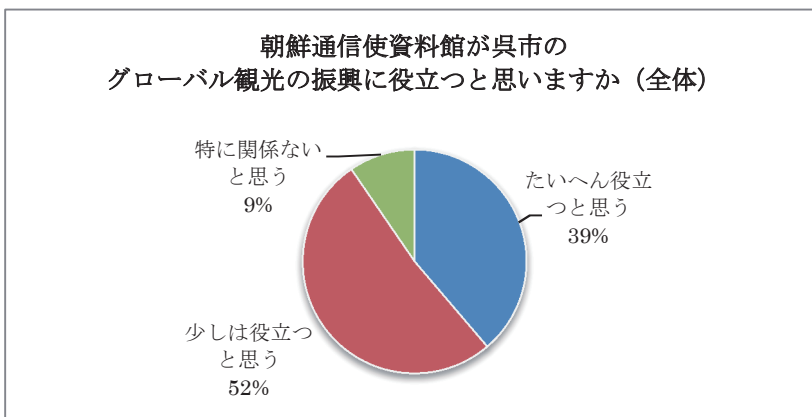
図 7



(3) 地域観光振興への効果

ここでは、呉市下蒲刈町の朝鮮通信使資料館が、今後呉市のグローバル観光の振興に役立つと思うかを尋ねてみた。そして、図 8 のように、「大変役立つと思う」が 81 件 (39%) と、「少しは役立つと思う」が 108 件 (52%) であることから、90%を超える人が地域の観光振興に何らかの効果があると考えていることが分かった。特に、年代が高くなるほど、朝鮮通信使資料館について良く認知しており、訪問歴も高い結果で、今後の地域活性化への効果を強く期待していることが分かった。

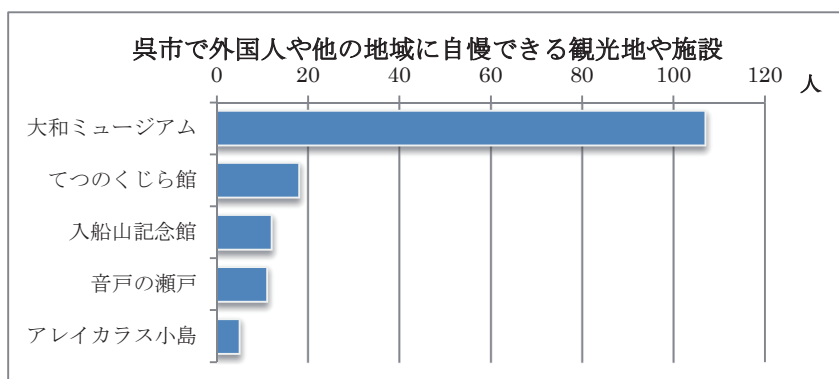
図 8



(4) 地域の主要観光地としての朝鮮通信使資料館

ここでは、地域住民として、外国人や国内の他の地域の人に対して、自慢できる呉市の観光地や施設は何かを尋ねた。記述式での回答を集計した結果は、図 9 の通りである。

図 9



このグラフを見ると、「大和ミュージアム」という答えが最も多く、その他の施設や観光地と比べて、格段の差が見られる。このことは、一般的な広報やマスコミでの露出等により、全国的にも知られていることを考えると、当然の結果とも言える。そして、この回答の中には朝鮮通信使資料館の記入が1件も無かった。このことは、地域における朝鮮通信使資料館の観光地としての認知が非常に低いことの表れである。今後、当該施設に対する認識が変われば、新しい呉市の観光施設として登場することが期待できると考えられる。

3 地域観光施設の情報発信の現状とモデルホームページの作成

1) 朝鮮通信使資料館の情報発信の現状

以下では、当該施設のインターネット上での情報発信とその内容に関するものである。当該施設は、呉市の公益財団法人蘭島文化振興財団^{iv)}のホームページに主に紹介されている。

朝鮮通信使資料館や下蒲刈町と朝鮮通信使との関係について、公式的に最も詳しく掲載されている呉市の蘭島文化振興財団のホームページのトップページには(写真1)、朝鮮通信使資料館についての直接的な記述が見受けられず、当該施設を含む「松濤園」で表記されている。また、松濤園の紹介部分(写真2)には、朝鮮通信使について記述されているが、朝鮮通信使資料館も「御馳走一番館」として紹介されおり、朝鮮通信使の資料館であることが分かりづらくなっている。そして、館内の紹介においては、朝鮮通信使の来日に際し、下蒲刈島が藩の接待所・玄関口であったことや、館内の展示物に関する簡単な説明等、概略的なものにとどまっている。勿論、現地や広島県内で配布・紹介されている各種観光案内物やパンフレット等には、「松濤園」と「朝鮮通信使資料館」についての詳しい情報が掲載されているが、紙媒体での観光情報が伝達される範囲を考えると、全国に向けた観光情報発信においては、インターネットの活用がより効果的と言える。

また、下蒲刈町の朝鮮通信使資料館の観光情報発信に関連して、同様の朝鮮通信使が立ち寄ったとされ、朝鮮通信使を活用した地域観光振興に取り組んでいる福山市の「鞆の浦」や、岡山県瀬戸内市牛窓町の「海遊文化館」、近江八幡市の「朝鮮人街道」に対し訪問調査

を行った。その結果、朝鮮通信使と関連した研究と資料や展示施設、関連遺跡の整備において下蒲刈町は、上述した地域に比べて、様々な側面において競争力を持っていることが確認できた。この結果から、当該施設の外部への情報発信における形式の変更と発信コンテンツの改善、それに対する観光情報の受け入れ側の反応とニーズを確認する必要性を確認した。そして、当該施設の情報発信の現状から明らかになった幾つかの改善点を考慮し、モデルホームページの作成に取り組んだ。

写真 1. 蘭島文化振興財団ホームページ



写真 2. 御馳走一番館（朝鮮通信使資料館）



(出所 : <http://www.shimokamagari.jp/>)

2) モデルホームページの作成と情報発信

収集した改善点を盛り込んだ朝鮮通信使資料館の情報発信の為のモデルホームページの作成には、次のような点に重点を置いた。

(1) 朝鮮通信使関連施設としての独立したイメージ

2013年10月現在、インターネット上において、朝鮮通信使をメインにした独立したホームページが無いことを考慮し、可能な限り朝鮮通信使を柱とした、下蒲刈町の観光情報案内のホームページを作成した。(写真3、写真4)

(2) 視覚的効果を重視

インターネットによって発信された情報の受け入れにおいて、視覚的情報が文字や説明文による情報と比べて強い印象を与えると想定して、モデルホームページでは、大きな写真を数多く使用し、視覚的なイメージ効果を図った。例えば、写真4、写真5、写真6のように、サイズの大きな写真を使用し、メニューボタンにおいても大きな文字で表記し、見やすい画面とした。また、資料館の館内の展示物等の写真を多数掲載し、訪れてみたいという魅力を感じさせるよう工夫した。(内山 2010年)

写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



(3) 平易な内容説明とシンプルなデザイン

専門用語をできるだけ避けながら、ぬいぐるみを活用したデザイン等を取り入れ、全体的に楽しく感じられるような内容に仕上げた(写真 5、写真 7、写真 8)。説明においても、掲載した写真と関連性の高い内容のみ簡潔に表記することに注意を払った。

(4) 情報の受け入れ側のニーズに合わせたコンテンツの提供

歴史に興味を持つ人や年齢層に考慮し、朝鮮通信使に関連した歴史的なエピソードを盛り込んだ他、韓国文化に興味を持つ人々の為に韓流との関連性を目立たせた。例えば写真

9 のように、朝鮮通信使の来日年表に日本でも人気の韓流歴史ドラマの背景となった時期を併記することで、韓流に興味を持つ人々への広報効果を図った。

また、写真 8 でのように、当該施設へのアクセス案内においても、詳しいバスの時刻表や周辺地図を掲載し、利用者側の立場での分かりやすい案内を心がけた。そして、朝鮮通信使とは直接的に関係ないが、地域の観光振興に直結する情報として、写真 10 のように、当該地域の特産品の詳しい紹介や販売に関する情報も提供した。

写真 7



写真 8



写真 9

朝鮮通信使の寄港地、兵市下瀬川しもかがり(おまがり)いつでも楽しめる！

朝鮮通信使ナビ in 呉市 しもかがり

年	元号	徳川将軍	使命	朝鮮国王	韓国ドラマ
1607年	慶長12年	秀忠	和対	宣祖(インジョ)	不滅の李裨臣 王の女 ・ホジョン
1617年	元和3年	秀忠	大原平定 日統統合の祝賀	光海君(クワンヘガン)	
1624年	寛永元年	家光	家光將軍就任の祝賀	仁祖(インジョ)	
1636年	寛永13年	家光	泰平の祝賀	仁祖(インジョ)	一統様
1643年	寛永20年	家光	家嗣誕生の祝賀	仁祖(インジョ)	
1655年	明暦元年	家綱	家綱將軍就任の祝賀	孝宗(ヒョクジョ)	碧吉山
1682年	元禄2年	綱吉	綱吉將軍就任の祝賀	肅宗(スクチョン)	・チャンヒビン ・チュオクの刺 ・ドソイ
1711年	正徳元年	家宣	家宣將軍就任の祝賀	肅宗(スクチョン)	
1719年	享保4年	吉宗	吉宗將軍就任の祝賀	肅宗(スクチョン)	
1748年	延享5年 寛延元年	家重	家重將軍就任の祝賀	英祖(ヨンジョ)	・木玉の道 ・イサン ・風の経緯
1764年	宝暦14年 明和元年	家治	家治將軍就任の祝賀	英祖(ヨンジョ)	

写真 10



(5) 朝鮮通信使関連リンクとの連携

朝鮮通信使関連情報を受け入れやすい対象者に伝達する為に、韓国・朝鮮文化や歴史に関連があるサイトと連携し、相互リンクを行った。

4 モデルホームページの評価

1) インターネット上でのアンケートの実施

前述したような朝鮮通信使資料館を柱とした下蒲刈町の観光案内のモデルホームページを作成し、それに対する情報受け入れ側の意見を収集するため、インターネット上でのアンケートを実施した。アンケート調査の概要は、次のようである。

- (1) 調査期間：2013年2月7日～2013年2月14日
- (2) 調査方法：公開したモデルホームページの中にアンケートの設問ページを設け、ホームページを見た感想を収集し、193件の回答を得た。
- (3) 調査内容：アンケート調査の主な内容は次の通りである。
 - ①年齢・性別
 - ②居住地
 - ③朝鮮通信使関連観光地としての認知度
 - ④呉市下蒲刈町の認知度
 - ⑤モデルホームページの感想
 - ⑥モデルホームページの内容における要望
 - ⑦地域活性化への可能性

2) アンケート調査の集計結果

アンケートは、ほぼ全国各地から193件の回答を収集することができた。その年齢構成は、10代～20代が25%、30代が22%、40代が24%、50代が21%、60代以上が8%となった。このことから、インターネット使用度においては、中高年層までの年代間では、ほぼ差が無く、中高年向けの情報伝達の手段としてもインターネットが有効的に活用できる可能性を示唆していると言えよう。また、インターネット上で行った今回のアンケートは、呉市やその近隣地域に限らず、日本全国から回答が得られたことに意義があると思う。

(1) 朝鮮通信使の認知度と興味について

全国的に見て、「朝鮮通信使」の認知度は、図10のようである。図10では、朝鮮通信使を全く知らなかった人は、43%と約半数に及ぶが、図11のように、モデルホームページを見て、朝鮮通信使について興味を持つようになった人が74%と、朝鮮通信使への関心の高さを示している。

(2) 呉市下蒲刈町と朝鮮通信使の関連について

そして図12では、現在の呉市下蒲刈町が、江戸時代の朝鮮通信使の寄港地であったことを知っているかということを探った結果、「このホームページを見て初めて知った」と答えた人が71%で、「下蒲刈町は知っているが、朝鮮通信使の寄港地としては知らなかった」

と答えた人が6%となっており、合わせて77%に及ぶ多くの人が、当該地域と朝鮮通信使の関連性を知らないことが分かった。

図 10

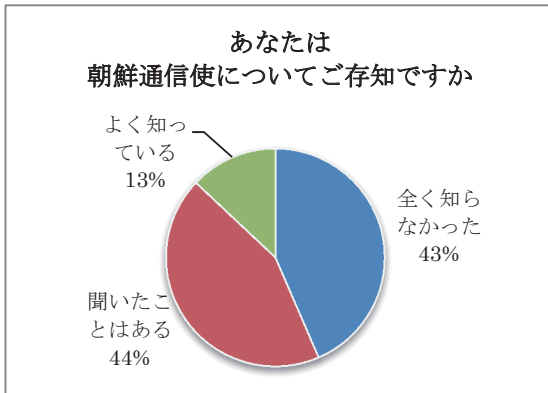


図 11

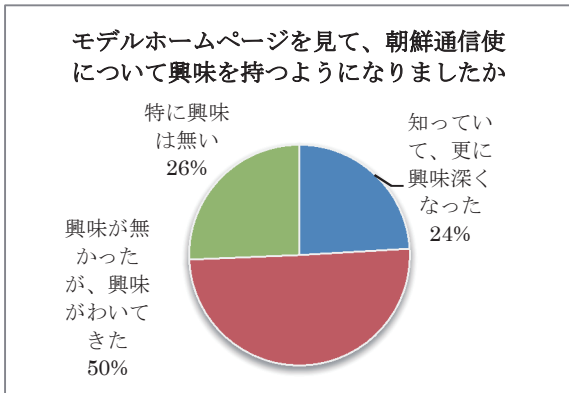
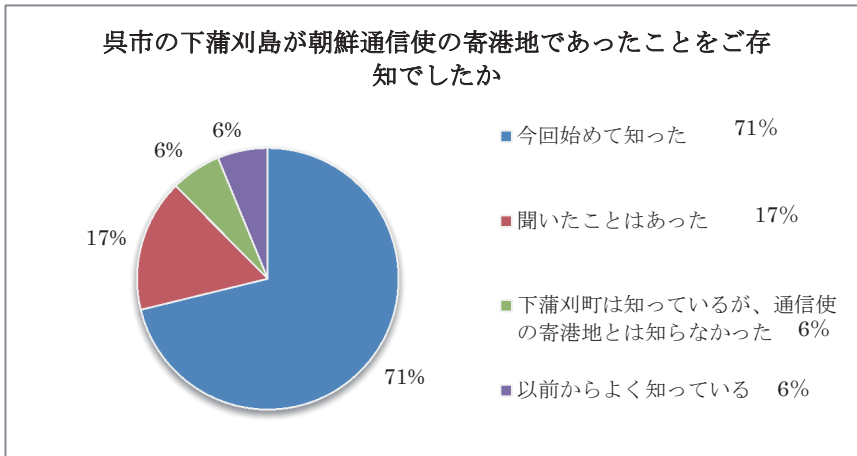


図 12



(3) モデルホームページの感想

次に、このモデルホームページを見た感想を尋ねたところ(図13)、「面白い」と評価した人が、70%となっている。勿論、「内容が分かりにくい」15%、「情報量が少ない」15%との指摘もあるが、これらをホームページへの要望や改善すべきところと考えれば、概ね好意的に受け入れられたと評価できるであろう。

さらに、図14のように、モデルホームページを見て「下蒲刈町へ行みたい」と答えた人が86%になっていることを考慮すると、効果的な情報発信の基本的な条件が確認できたと言える。

(4) モデルホームページにおける要望

今回のインターネット上でのアンケートを行った結果として、最も重要とも言えることは、ホームページの作成や内容に対して数多くの意見が寄せられたことである。

これは、情報の受け入れ側が希望する内容や情報についてのパターンを把握する上で、

大変意義のあることだと思う。寄せられた発信情報のコンテンツに関する要望を集計すると、次の図 15 の通りである。図 15 からは、下蒲刈町の観光情報に限らず、「現在の韓国の文化・生活関連情報に関する情報発信の要望」や「朝鮮通信使に関する詳しい情報」も期待されており、全体的に、地域の観光情報と共に深みがある歴史的事実や異文化に関する深みのある内容の発信を期待していることが分かる。

図 13

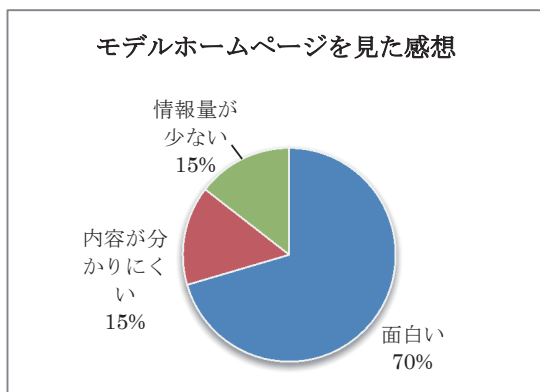


図 14

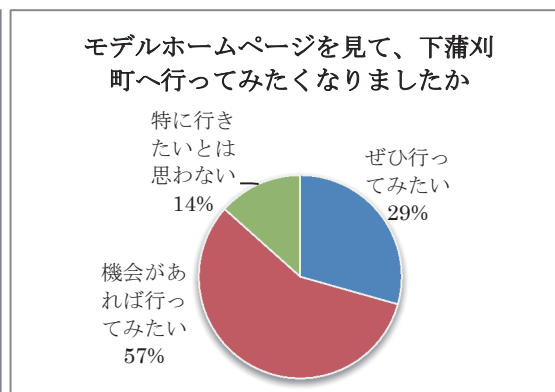
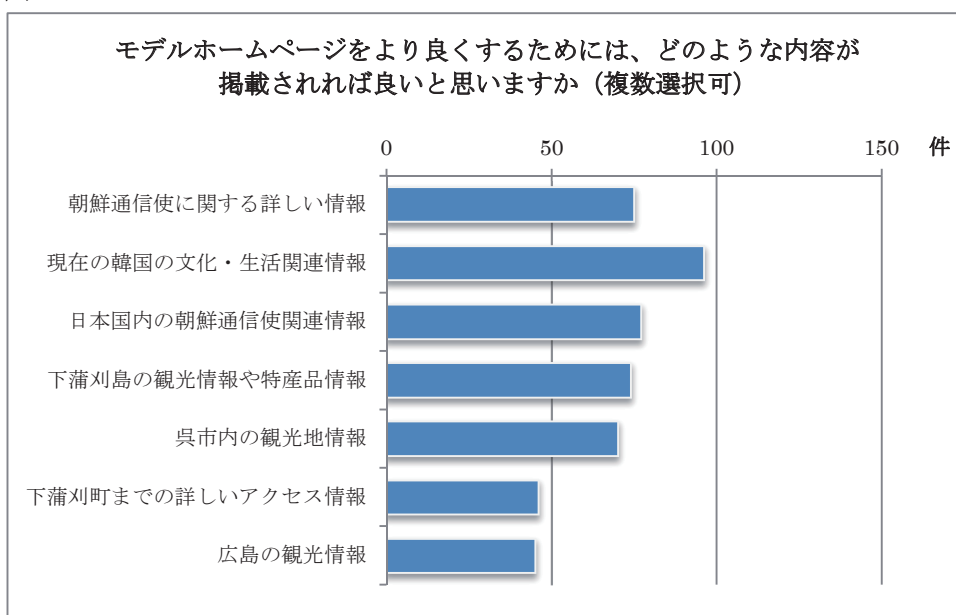


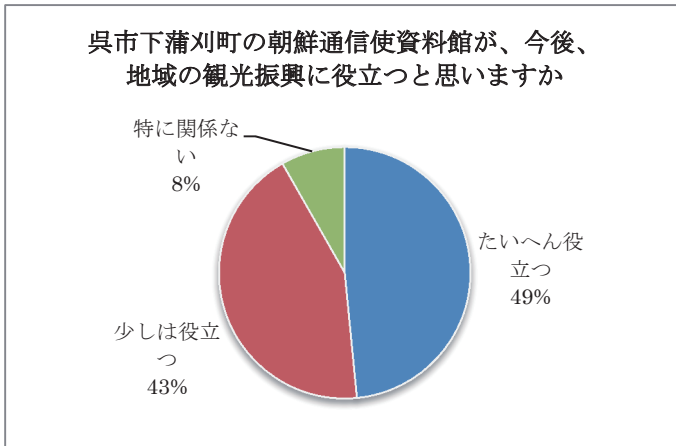
図 15



(5) 朝鮮通信使資料館の地域活性化への可能性

さらに、地域住民ではない客観的な立場から、「呉市下蒲刈町の朝鮮通信使資料館が今後、地域の観光振興に役立つと思うか」の質問においては、図 16 でのように、概ね 92%の人が「役立つ」と答えている。これは、呉市内での質問票によるアンケートの結果（「役立つと思う」が 91%）と同じく、地域活性化における当該施設の今後の積極的な活用と情報発信に関する期待を表していると言える。

図 16



これまでの得られた集計結果から、今回の下蒲刈町の地域活性化と観光振興のためには、当該地域の既存施設の案内と共に、当該地域の潜在的な文化資源とも言える朝鮮通信使と関連した価値ある歴史的事実をもっと積極的により多くの人へ発信する必要性が確認できたとと言える。

5 おわりに

本稿では、広島県呉市の下蒲刈町の朝鮮通信使資料館をとりあげ、インターネットを利用した地域観光情報の発信における地域観光活性化の可能性を模索してみた。その結果、インターネットによる積極的な情報発信は、今後の地域活性化や地域観光振興において必ず必要な要素であることが確認できた。なぜならば、インターネットを利用する年齢層は拡大され、また、従来の紙媒体や地域イベントによる広報よりも、はるかに情報伝達範囲が広いからである。そして、発信・蓄積された情報は、そのデジタル情報の特徴から、継続的に提供され続けることで、これらにかかるコストが安いメリットもあるからである。また本稿では、このような地域観光情報発信におけるコンテンツと、より効果的な構成を求めてアンケート調査を行い、情報発信における問題点や改善点、及び情報受け入れ側の要望をまとめた。

以下では、インターネットにより地域観光情報を発信する上で、情報発信が地域の観光振興に、より効果的に結び付くためのいくつかの提案を行いたい。

まず、地域観光情報の発信における観光施設の独自のホームページの必要性が確認でき、そのホームページの構成において考慮すべき点が明らかになった。すなわち、観光情報の受け入れ側のニーズを重視し、分かりやすい説明や見やすいデザイン、見て魅力を感じさせる多様性が優先されるべきである。そして特に、発信情報のコンテンツ（内容）においては、当該施設の深みがある内容と共に、情報受け入れ側の年齢や嗜好を考慮した関連内容までを盛り込まなければならない。

以上のことから、地域観光情報の発信において最も考慮すべきことは、情報の受け入れ側の立場に立って、受け入れ側のニーズを正確に把握した上で、当該観光施設の情報を継続的に発信することと言える。

情報化進展の恩恵により、インターネットによる観光案内が、地域観光情報の伝達において、ますます効果的な手段となりつつある。インターネットによる情報発信に取り組み、改善を重ね、より効果的な情報伝達も容易に行えるようになりつつある今日、このような改善や政策を持続的に推進する組織や人材の明確化が今後の地域観光情報の発信の成敗を決める鍵となるだろう。

謝辞

本論文は、平成 25 年度呉地域オープンカレッジネットワーク会議の助成を受けた「地域活性化研究」の一部を含んでおり、調査においてご協力いただいた蘭島文化振興財団と呉市の企画情報課、観光情報課の関係者の方々に感謝致します。

注

i 2010 年観光庁の ICT を利用した情報のリアルタイムの入手、共有、発信、蓄積、解析、活用などを容易にし、利便性を向上させ、観光産業の促進を図るプログラム。「観光 ICT 化促進プログラム」観光庁ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/common/000132697.pdf>) を参照されたい。

ii 下蒲刈町の全島を庭園に見たてたガーデンアイランド構想に基づく町づくりの一環として整備された松濤園の中には、朝鮮通信使資料館である「御馳走一番館」以外にも「陶磁器館」「あかりの館」「蒲刈島御番所」があるが、本稿では、最も特徴的な「御馳走一番館」を松濤園の主たる施設とみなし、考察する。

iii 江戸時代に新将軍の就任のお祝いなどのために朝鮮から日本に送られた使節団のこと。朝鮮からの通信使は、室町時代からの始まりで、江戸時代まで行われていた（韓国では高麗王朝、朝鮮王朝時代にあたる）。しかし、江戸期に派遣された通信使を特に朝鮮通信使と通称している。

iv 呉市下蒲刈町地内の美術、歴史遺産及び自然科学資料に関する市民の知識及び教養の向上を図り、文化の発展及び生命の尊厳を学び、並びに教育、学術研究及び文化交流に資するために設立された公益財団法人。

参考文献

1. エネルギア総合研究所 「朝鮮通信使に関するアンケート調査について」, エネルギア地域経済レポート No.463, 中国電力 (株), 013 年 2 月

2. 内山祭「インターネットニュースにおける視覚情報の受容に関する調査研究」,『国際日本研究』第2号,筑波大学,2010年3月
3. 柴村敬次郎「朝鮮通信使と蒲刈」 1977,下蒲刈町
4. 野澤伸平「広島県の歴史散歩」2009,山川出版社
5. 観光庁「観光白書(H23年度版)」2011,国土交通省観光庁
6. 権俸基「歴史文化遺産の再評価と地域観光の振興」,『社会情報学研究 Vol.17』,広島文化学園大学,2011年,